

2022年度 活動実績&成果

はじめに コロナ感染拡大は前年度から続き第6波、さらに8~9月の第7波と継続したがマスク着用などに留意しながら、豊島での活動はほぼ例年並み・計画どおりに実施できた。ただ急拡大した第8波の1~2月にかけては一時活動を中止することとなった。

1. 豊島の活動内容、回数、参加者数 コロナ禍の影響が懸念されたが、年度計画の主要活動である田植え、稲刈りには各25人ほどの多数の参加者があるなど、年間活動回数26回、延参加者数は246人と計画の20回、200人を大幅に上回った。詳細は別途「2022年度活動実績一覧表」のとおりである。なお年度当初の正会員は61人、賛助会員は1個人、3法人である。

2. 主な作物栽培

(1) 稲作 田植えは昨年に引き続き6月末の第4日曜日とした。第2週の小麦の脱穀作業から連続にならないように1週遅らせたものである。次年度からも第4週としていくかどうかは稲刈り時期も考え再検討する。7~8月の炎天下の田んぼの草取りも毎回10人ほどの参加者があり予定通り3回実施できた。収穫量は夏場の水不足の影響があったのか例年よりも10~20%ほど少ない180kgとなった。ちなみに県下の作況指数は「103」であり「田植えの時期以降に好天に恵まれ稲穂に多くのもみがつくなど生育が順調だったことに加え、例年に比べて台風の影響も少なかったため」と分析している(中国四国農政局)。

(2) 小麦 当くらぶの棚田6B,7Bに隣接するTさんの畑1枚を借用し小麦栽培をした。6月の刈り取り作業は小麦の背丈と同じほどの雑草と格闘しながらの手間取った作業となった。収穫量は30kgである。

(3) 蕎麦 小麦と同じ畑に後作として8月末に種まきをして11月に収穫した。収穫量は22kg、製粉後には蕎麦粉17kgであった。

(4) レンコン 昨年に引き続き種レンコンを植え付けした。しかしながら夏場に豊島全体が水不足となり、稲作用の水確保優先のためレンコン池には水が回らず池としての状態を保てず畑状態となりレンコン葉が枯れ葉となり残念な結果となった。

(5) 大豆 「豊島味噌づくり愛好会」の方々と協働し、大豆栽培に挑戦した。畑1枚に作付けしたが、花が咲き結実するころの水が不足し少量の収穫量にとどまった。次年度以降も大豆に加え小豆、黒豆の栽培にも試行していく。

(6) 花 六角庵前の花畑に種々の花を栽培し、除草もいきどき季節の彩りを伝える花畑となった。

(7) その他作物 ジャガイモ、タマネギ、サトイモ、サツマイモなど栽培。なお、サトイモは水不足でイモが大きくなり、サツマイモ・秋作のジャガイモはイノシシ被害に会い全滅し収穫ゼロとなった。

3. 棚田の保全・景観 4~12月にかけては例年並みの活動回数を確保することができ六角庵周辺や棚田は稲作、畑作、花の栽培、畔や石垣の草刈りを行うことにより、年度を通しほぼ良好な景観を確保できた。

懸案になっていた田んぼ山側の角地を整備した。石垣から崩れ落ちた石と雑草に覆われていたもので、雑草を刈り取り、防草シートを敷きその上に石を敷き詰めて畦道を再生した。

また当くらぶの棚田に隣接する下側の棚田の草刈りも実施し、「唐櫃の清水」から瀬戸内を見渡す眼下一帯の棚田の景観確保をすることができた。なお次年度も作業日には少しでも畔の草刈り作業ができる時間を確保していく。

4. その他特記事項

(1) 収穫物の販売 お米、蕎麦粉、小麦粉、ジャガイモ・タマネギなど会員で分かち合い、残りは販売し運営費に充当した。

(2) イノシシ防護柵の設置 既存防護柵の中段のやや広い網目からイノシシの侵入・被害にあった。このため防護柵に防護ネットを張り付け、また棚田西側半分ほどは、既存柵の内側に新たな柵250mを設置し防護ネットを張り付けた。なお、ネットは景観に配慮した緑色とした。設置作業は「チー夢豊島」との協同作業である。

(3) 収穫祭他 12月に収穫祭を開催した。収穫し製粉したばかりの蕎麦粉と6月に収穫し保存していた小麦粉を使用した純豊島産の手打ち蕎麦や小麦粉ガレットを十分に楽しむことができた。コロナ感染拡大防止の観点から六角庵の海側広場で各自、各家族単位のシートに分かれての食事となった。また昨年に引き続き8月の上期報告会、9月のBBQ、1月の新年会などは中止とした。

(4) 活動助成金と広報活動 過去14年間に渡り「イオン環境財団」から活動助成金を受けていたが、今年度は「瀬戸内オリーブ基金」から支援を受けての活動となった。また豊島島内主要個所に活動案内ポスターを掲示するなど広報活動の活性化に努めた。